

4 アトピーとリンフォーマの 治療の共通点

Common therapeutic approaches in the treatment of atopic dermatitis and cutaneous lymphoma

濱田利久

HAMADA Toshihisa
高松赤十字病院皮膚科副部長

Summary

アトピー性皮膚炎(AD)は、おもに Th2 優位な環境下でサイトカインやケモカインが複雑に関与する全身性炎症と、表皮角化細胞層におけるバリア機能異常を背景とした疾患である。一方、皮膚リンパ腫は、リンパ系腫瘍としての性格に加えて、菌状息肉症を主要な疾患とする皮膚 T 細胞リンパ腫(CTCL)のように、AD に類似した Th2 様の免疫学的背景をもつことが知られている。病態解明が進むなか、両者の共通点が明らかになりつつあり、新たな治療標的としてクローズアップされる可能性がある。本稿では治療面からアトピーとリンフォーマの共通性を、前半は従来からの治療法について概説する。後半では将来に向け可能性のある治療標的について触れた。

菌状息肉症

おもに CD4 陽性の皮膚に原発する末梢性 T 細胞リンパ腫で、腫瘍細胞の表皮向性浸潤が特徴。進行は、はじめ緩徐で紅斑期・扁平浸潤期・腫瘍期を経て、やがてリンパ節浸潤や内臓病変を伴うようになり得る。臨床像・病理組織像の異なる亜型が多数報告されている。

セザリー症候群

紅皮症とともに末梢血に異常リンパ球のクローン性増殖(白血化)があり、TNMB 分類で B2(セザリー細胞が末梢白血球中に 1,000 個/ μ L 以上)を満たす。セザリー細胞は、CD4 陽性 CD7 陰性または CD4 陽性 CD26 陰性の形質をとることが多い。アグレッシブリンパ腫の位置づけで、厳密には皮膚原発のリンパ腫ではないが、菌状息肉症からの進展例がみられるために、近縁疾患として取り扱われる。

KEY WORDS

アトピー性皮膚炎／菌状息肉症／セザリー症候群／皮膚 T 細胞リンパ腫(CTCL)／生物学的製剤